

藤の花見物

文・里山 景

2年前のことだった。都内で、『丸の内フラワーウィーク2009』が開催されていた。「足利フラワーパーク」の園長さんは女性樹木医の第1号といわれて、藤をバックにしたコマージュのテレビに出ていた。園長さんの講演が新丸ビルで行われるというので、私は聞きに行った。

園長さんは背のスラリとした、藤の花のように美しい人だった。藤の花が、フラワーパークで見事に咲いていることを知った。藤は一度に咲いてしまうのではなく、薄ピンク、紫、白、黄色、と順々に咲いていく。

5月17日までは藤祭りをしている。夜9時までライトアップをしていると語っていた。

ぜひ、藤の花を見てみたい。思い立ったらすぐ実行。5月の連休明けに、友の運転する車で出かけた。よほど有名なのか、観光バスが連ね、乗用車も多く、周辺の道路は渋滞していた。広い駐車場は満車で、係りのおじさんが交通整理をしていた。

どうにか車を止めてから、入場券を買って園内に入った。少し歩くと、幹がくろぐろとして 太い藤の木があらわれた。パンフレットに記載されているように、600畳敷きの藤棚には80センチの花房が垂れている。樹齢は140年とのこと。

しゃがんでみたり、離れてみたり、厚い厚い藤の花のカーテンだ。「キャットホール」「ワンダフル」「ダイナミック」と思わず声が出てくる。なんと幻想的な世界なのだろう。



これだけではなかった。しばらく行くとまた、600畳じきの藤棚が2つ対になって並んでいる。樹木医の腕のよさが感じられ、よくもこんなにも立派に

育てられたものだど驚かされた。

私はふと出かけ間際の夫婦の会話を思い出した。

「足利のフラワーパークへ藤の花を見にいつてくる。」

と、夫に言ったら

「何も銭をかけて、栃木の田舎まで行くのはバカがすることだ。亀戸天神の藤は素晴らしいぞ。そこへ行ったほうが利口だぞ。」

と憎らしい返答があった。

今度は白藤のトンネルだ。80メートルも続いている。前を向いても、後ろを振り返ってみても、白1色に包まれた、すがすがしい世界だった。そこを通る人の顔、顔、顔、皆は幸せそうない顔をしている。バージンロードを歩いているような気分だ。

八重咲きの藤棚もある。これも立派なぶどう棚のように丸い花で、とても珍しいと聞いた。むろん、私は始めてみた、感動すべき光景だった。

あいにくの雨模様で、到着して1時間後には小雨が振り出した。黄色の藤はつる性ではなく、木の種類でキングサリという名前だ。これもトンネル状だが、若い木なので、穴だらけのトンネルである。生育すれば、素晴らしいものになるだろう。

雨の降りが強くなってきた。屋根のある、お土産売り場に入った。広い建物は人でごったがえし、迷子になりそうだ。

気持ちの持ちようだ。晴天ならば、大勢の人ごみで、砂埃が大変だったろう。あいにくの雨だったが、しっとりといいい気分にはひたることができた。

同パークは手入れが行き届いている。クレマチス、しゃくなげ、黄色のぼたんなども色よくおおらかに咲いていた。

感動を胸に帰宅すると、私は夫の目の前に、おもむろに、お土産の藤まんじゅうとお茶を差し出した。

「亀戸天神の100倍も、1000倍も素晴らしいかったよ」と夫にそう言ってやった。

